

# かてのやく

昭和54年9月10日

題字・先代 藤井得三郎氏

## 一般薬の承認審査について

厚生省薬務局審査課長

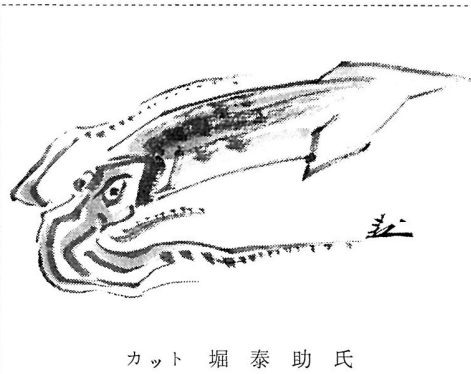
新田進治

医薬品は、薬事法により各種の厳しい規制が設けられておりますが、その規制の柱となるのが承認制度であります。医薬品の品質、表示等の適否の判断は、その医薬品の承認内容が判断の基礎となります。

このような重要性をもつ承認制度のなかで、一般薬の承認審査の概念が明確となったのは、昭和四十二年九月に定められた「医薬品の製造承認等に関する基本方針」以降のことです。基本方針以前でも、医薬品の承認審査に際し、その申請目的が医療用であるか、一般用であるかがある程度概念的に区別して審査を行っていたわけですが、昭和四十二年の基本方針で承認申請書の記載をすることにより、以後、医療用と一般用の区別を明確に認識し、それぞれの特長・性格に応じた審査方

針で、審査が行われるようになったのであります。

一般薬の承認審査の方針は、その対象が不特定多数の一般消費者で、しかも、医療用の様に精密な臨床検査の結果、医師が特定の処方に基づいて適用されるものとは異なり自己診断の結果使用されるわけですから、



氏助泰 堀 田 カット

その有効性ととも、その安全性の確保が重視されます。また、適応の範囲は、おおむね、軽度の疾病又は症状の治療・予防等に限定されるものであり、使用方法等は、一般消費者の判断で適用しうるものであることが必要条件となります。

このような一般薬の審査方針の骨

格は、時代の変遷によってあまり変わるものではありません。しかし実際の承認審査にあたっては、細かな判断基準は医学薬学等学問の進歩に対応し、審査時点における学問水準をもとに審査するわけであり、審査の時点で個々の一般薬の審査内容に変化が起ることがあります。

医薬品の承認審査の基準や内規は、なるべく関係業者に公表し、承認事務の効率化を図ることが、行政当局と関係業者にとって有益であることは、言をまたないところであります。

特に、一般薬については、薬効群毎に承認基準を作成する作業を進めており、これまでに、かぜ薬、解熱鎮痛薬及び鎮咳去痰薬について、その承認基準を定め、現在、胃腸薬の承認基準を作成すべく検討を進めているところであります。

胃腸薬の中には、制酸薬、消化薬、健胃薬、整腸薬等多くの種類の成分が使用されておりますので、従来の基準と比べて、かなり複雑な内容となりつつあり、作業が若干遅れ気味であります。本年度中には、その成案を得たいと考えております。

承認基準以外に、昨年は、日本薬局方外生薬規格集の作成、殺虫剤指針の改訂等を行うとともに、細かい審査内規等もなるべく製造指針等で紹介するように努めているところがあります。

しかし、このような承認審査業務の合理化等に種々努力しているにもかかわらず、申請してから承認審査に到るまでの期間が延びる傾向にあり、関係業者の皆様は大変ご迷惑をおかけしていることと思います。

この原因として、幾つかの要因が考えられますが、行政側の問題としては、審査課の業務が近時益々多方面にわたるようになり、承認審査以外に費やす業務が増大し、担当官が毎日夜遅くまで残業しているにもかかわらず、承認審査に費やす時間があまり取れないことがあげられます。

今後、薬事法改正作業が進行するに伴い、この傾向が益々増大するところが憂慮されるのであります。一方、申請される業者の側からの問題としては、まず申請件数の増加があげられます。昭和五十三年の申請件数は前年に比べて十六%増となっています。また、申請された件数のうち、書類の不備等で返戻・返送

されるものが依然として三割近くあることがあげられます。

返戻・返送されるものの中には、審査内規の変更等により返送されるものもありますが、単純な記載ミスや既に公表している審査内規等に合致しないために書類不備となる事例が多数あることは、今後申請者においても、改善の余地がある課題と思われれます。

医薬品の承認審査を取りまく諸情勢は近時益々厳しいものがあり、一般薬といえどもその例外ではありません。

しかし、承認審査の合理化・促進化は、行政側及び申請者の両方にとっても重要課題であり今後とも、必要な努力を払ってまいりたいと思えます。

申請者の側においても、真に製造(輸入)を行いたい品目にしほつて承認申請をされるときに、申請書の作成に当り、各種の審査基準や内規等に十分配慮し、誤まりのない書類を作成されるようお願いする次第であります。

対談

## 家庭薬は 民族薬のエキス

日本大衆薬懇談会専務理事 新井 誠氏  
柳亀角散社長 藤井康男氏

藤井 本日はお忙しいところを、わざわざご足労頂いて恐縮でございます。

この対談はずっとつづけています。今までは、どちらかというところ、  
△異色▽のお相手でございましたが今回は家庭薬とは縁の深い大衆薬懇談会の新井専務理事さんとの対談をさせて頂くことになりました。  
ところで、新井さんの学校はどこらでございませうか。



新井 誠氏

新井 終戦の年に旧制山形高等学校の理科乙類、いわゆる医者コースに入り、卒業の年に一度は医学部を受けたのですが、フラれて転向し、早稲田を出たという、例の白線アブレ組です。

藤井 それで新聞記者になられたわけですね。何年くらいおやりになったのですか。

新井 約十九年になります。うち政治記者十七年です。

今でいえば「大平番」なのでございます。今でいえば、当時「鳩山番」とか「鳩番」とか申しまして、鳩山さん付きの記者でした。

朝は八時から、夜は鳩山総理がおやすみになるまで、付きっきりなんです。総理は血圧が高かったため、いっとうなるか判りませんのでね。

その間に、鳩山さんを総理にした三木武吉さんが亡くなられたり、社会党の統一大会があったりしました。

その後、野党では、西尾さんが新党結成で、NHKの家城さん(現解説委員長)と一緒に、西尾さんを応援したりしたこともありまして。

六〇年安保騒動の頃、自民党では大野伴陸先生についていました。当時の政治記者というものは派閥



藤井康男氏

記者全盛時代なんです。

記者だか政治家だか判らないほど派閥にぐっと突っこんでしまっているのです。

〈夜討ち朝駆け〉といって、朝は八時には大野伴陸さんの邸に行きました。

大野番の記者には伴陸さんニコニコして出てきて「何じゃ」と気軽に応答しますが、他の派閥を担当している記者が行くと機嫌が悪くなってしまう。

藤井 一種のブレンですね。

新井 そうですね。

藤井 記者から政治家になった人もいますね。

新井 毎日の安倍晋太郎さん（前官房長官）とか、読売の伊藤宗一郎さんとかです。

〈夜討ち朝駆け〉というのは体が丈夫でないといけません。

夜は料亭ですが、我々は料亭に上

がれませんか、玄関先でうろうろして待機しているわけです。

先生が出てくると「先生、どんな話ですか」と言って取材し、それから先生の邸までついて行き、それから社に帰って原稿を書くのですが、

自宅へ帰るのは夜中の二時頃です。安保の年に、胃潰瘍をやりました

が、原因は酒のせいではなく、寝不足とタバコです。

大野さんのあと、川島正次郎さん、そのあとは藤山愛一郎さんについて

たこともありました。福田赳夫さんとは三十四年頃からのおつき合いです。

それから、いわゆるデスクに入り

出先の原稿直し専門というのが四年ほど。若い記者の下手くそな字の原稿を読むのは気ほねが折れるものです。

〈記者席〉という政界の裏ばなし

の欄がありますね。あれは、サビのきいた文章で、藤井さんの筆みたいでないといけません。（笑）

短かい文章で、ピカリと光るものでないと駄目で、政界の裏の裏の真実が書いていないと失格です。

なまはんかの文章では面白くないわけですよ。

定年はまだまだでしたが、転身す

るなら今だと考えていた矢先に、ちやうど事務局長ポストのお話があったわけです。

昭和四十七年でした。

藤井 記者の仕事をやっていると体をこわすでしょうね。

新井 三日に一度は深夜帰りですからね。年貢の納めどきという気持ちでした。

昭和四十一年一月にはダンプにのしかかられ、九死に一生を得たこともありましたしね。

藤井 家庭薬は大衆薬懇談会の中で相当なウェイトを占めていると思いますが、七年間ごらんになっていて、家庭薬の印象はどうですか。

新井 非常に温かい方の集まりだという印象が一つですね。

何人かの社長さんとお会いしましたが、皆さん立派でした。

大野伴陸さんのよく言われた言葉

に「人は己れを知る者の為に死す」というのがありますが、このような機会は一生の中にそうないと思えました。

私の兄が日経の常務をしていました、兄に相談しましたら、転身を賛成してくれました。

家庭薬の社長さん方の人間的の結びつきというものは、ほかの業界に

ない良さだと感じますね。

藤井 それは我々が意識していないことですね。

新井 恵まれていると言えるかも知れませんが、非常に和やかです。

私は、白いものを黒いと言い、黒いものを白と言う世界を長い間見てきましたが、家庭薬の皆さんとお会いしますと、非常に真面目です。いったん決めたことは決して裏切らない、ということを感じます。

藤井 逆に、凄腕に出会うとイチコロということが言えませんか。

新井 それもあるかも知れませんが、本当に偉い人なら、そんなことはありません。

藤井 誠実ということなのでしょうか。

新井 誠実でございますし、生真面目すぎるくらい、ハッタリのない方が多いようです。

藤井 家庭薬はもっと政治力を持つべきでしょうか。

新井 ただで政治家に何かやってもらったら七代たたるともいわれずからね。

人に頼まれますと、その場でお役所あたりに電話して「こうやってくれ」なんて、エラそうなポーズをとる先生がいます。

しかし、先方は「わかりました」などと答えてはいないので。

**藤井** 詐欺ですね。

**新井** なかには詐欺まがいの人もいるようです。

政治家の手を借りることもあるでしょうが、一般的には、再評価にしても、救済制度にしても、社会の変革に対して、当然のことを、それなりにやっていけばよいということではないでしょうか。

**藤井** 勇気を与えられる非常にありがたいお言葉だと思います。

最近起こった京都商組の問題ですが、あれは開關以来の棒事ですね。

私としては、もっと時間が経たないとコメントはできません。

**新井** ちょっと見た目には正論のようなことを一応いっていますが、本当は一般消費者の視点では許されないことです。

**藤井** あの場合はいしやうがないのでしょうね。

**新井** メーカーの側とすれば、むしろ真ッ正面からケンカするよりもこの手合とはこの程度で済むなら済ました方がいいということで、こちらの方が大人だということでしょう。

本当は営業部長サイドでやるのが

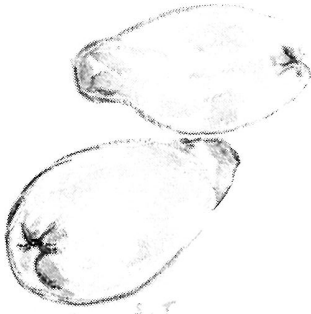
望ましいのでしょうかね。

**藤井** 遣り手の営業部長はいますかね。

**新井** 何人かおられますよ。しかし、概してオーナー並に上品ですな。

**藤井** 家庭薬の将来についてどうお考えですか。

**新井** 家庭薬が一番強いのではないかと思えます。



氏枝静林 建林氏カット

**藤井** 一部に〈家庭薬安楽死論〉というのがありますが、厚生省としては、許可した手前いままさら禁止もできないので、じりじり追いつめていくのではないかという見方がないでもなかったようですな。

**新井** 日本のOTCの中で、結局一番強いのは家庭薬ではないだろうかとは私は見えています。

大衆薬の中で、一番ユニークな特

徴を持っているのは家庭薬ではないかと思うからです。

家庭薬というものは、武見先生の持論じゃありませんが、長い年月の間に、悪いものは捨てられ、良いものだけが生き残るといふかたちで、民族の体質に馴染むものが、進歩発展を遂げてきた、いわば民族薬のエッセンスのようなものと考えています。

その意味からいえば、新薬から大衆薬になったものよりも、日本という国柄の中に生きてゆくには、基本的に強い体質を持っているのではないかと思うのです。

大衆薬というものは、医者の方箋なしで、各個人が家庭での健康管理の中で使うということが最大の使命であるとするならば、やはり安全であって有効であるということが、体によく馴染むということが市民に愛されるゆえんではないでしょうか。

民族薬的な特徴というものが家庭薬の伝統であり、長年月の間に経験というかたちで、事実上のヒト試験を経てきているということです。

再評価というものは形だけではないかと思えます。理屈に合わないものはきびしい規制を受けるかも知れませんが、有名な家庭薬の場合、

そう簡単には潰されない強い体質を持っていると思うのです。

**藤井** 一部で、厚生省が再評価を楯に、家庭薬を除かせるということが言われているようですが、被害妄想でしょうか。

**新井** 被害妄想でしょうね。ただお役所というものは、限られた人員で、限られた尺度の中で、一つの枠の中にものを嵌めていかなければならない難しさがあるわけですね。

それですら、こちらの対応がまじいと、折角のものが生き残れないという事態が発生しないとは言えません。

**藤井** 家庭薬は、厄介なことに、例外が多いのです。

例えば、一定量の成分が入っていないと薬効がうたえないということがありますね。

**新井** 何も臨床データをいちいち付けなさいというのではないでしょう。考えられるだけのあらゆる資料を添えて証明に近づけようということではないですか。

単的な例を申しあげますと、白紙の答案では点のつけようがないけれども、何か書いてあれば教授は点をつけやすいわけです。

誠意をもって対応するかぎり、多

年に亘って愛用されている、人気のあるブランドがすぐにパッサリやられることはない、そういうことではないね。

**藤井** 家庭薬の強さというところは信じたのですが、現実の世界で、流通面で乱売とかの問題はありますね。

もう一つ、心配なことは、日本文化というものは、例えば結婚についていえば、大安の日を選び、神前式を挙げ、ケーキを切って、ウェディングマーチを流すというように、民族の良さが判りにくいことですね。

武見先生のありがたいお言葉も、大衆に理解されなければ売れませんからね。

その意味で、流通の遅れとか、パブリック・リレーションの遅れとかが問題ですね。

**新井** まだ返品というものがありませんが、何らかの形で、早く廃止しなければいけないと思います。業界の悪習慣ですよ。

**藤井** 返品がなくなるなんて夢ですよ。返品自由の習慣をつけてしまったのは誰だか判りませんがね。

**新井** 生産したものがまた戻ってくるなんて、こんな経済の立ち遅れ

はないですよ。

商品化したものは必ず売れなくてはならないし、必ず売れるということとを計画の中に入れて生産されるべきものでしょう。

ことは暖冬だったので売れないから返品するというのは悪い習慣だと私は書いたことがあります。

大手で返品廃止を考えて突き返され、また元の習慣に戻ったことがあります。理論的にはやり得ることだと思いますよ。

**藤井** 我々は既定の事実として、不可能視していますね。

**新井** 公取委の話では、日本の業界で古いものが三つあって、薬の業界と、本の業界と、お酒の業界だそうですね。(笑)

情報への対応が悪いし、旧来の陋習がいろいろ入り組んでいますね。いま公取の槍玉にあがりつつあるのは本ですよ。

**藤井** とにかく、やるとしたら共同歩調をとることですね。

返品は家庭薬は少い方で、一般薬は返品が当り前になっています。家庭薬はその余波をくらっているというわけです。家庭薬には返品ゼロというのがありますよ。

うまく出来れば、流通の問題は一

挙に解決しますね。ただそれだけで解決しないのは、大衆の商品に対するイメージですよ。

**新井** 家庭薬の強さは愛用薬としての強さですよ。今の時代ではむしろの強さが多いですけれど。

**藤井** 水鳥の羽音に驚いて右往左往したり、あわててペンキを塗りかえることはやらない方がいいですね。

花王にしても、ライオンにしても



枝 静 林 建 切

散と仲がいいとか、ロートと太田胃散と仲がいいのですが、戦闘的になると、そうはいかなくなるでしょうね。

**新井** そこまではいかないでしょうが、大衆薬の危機感を感じるならもうすこし戦闘意欲を持ってほしいように思います。

あまりにも出来すぎ、練れすぎちゃっているような気がします。

今は手探ぐり時代で、何をしていたか判らない。みんなが模索している時代ですが、何らかの恰好はつけなければならぬ。

**藤井** そのへんの対応は、めいめいが努力することですね。

ところで、家庭薬に対する苦言をひとつお聞かせ下さい。

**新井** 口では大変だ大変だと言っているが、実際は勉強しないんじゃないかと感じました。

これからは、変革と模索が大切なことです。

経営者は情報に対応できる勉強をしなければ駄目ですよ。

**藤井** 社長は翔んでる経営者だから別としましてね。(笑)

さいごに暴言をお詫びします。

**藤井** どうも本日はありがとうございました。

# GMPについて

GMP委員長

渡辺 俊邦

医薬品製造に於ける有効性、安全性の確保を目的に、その機能の全体を品質管理を考え、生産の実態、製品の種別、剤型や生産規模等その多様性に応じて製剤技術の発展、設備機械の改善、また開発向上をはかることがGMPの本質であると理解している。

昭和四九年九月にGMP基準設定がなされ、昭和五〇年四月一日実施細則設定、昭和五一年三月当局監修に係るGMP解説書が作成されて、昭和五〇年四月一日よりGMP実施に移り昭和五二年一月に解説書の改訂があった。

その間一部の面に対し実施猶予を認め、当局の指導を得ながら医薬品製造業の多種多様な実態に応じた解釈運用をもって、GMPの目的達成につとめてきた。ソフトウェアに於

いても企業の実態をGMPに全面的に適合させるには、かなりの努力を要したものである。ハード面に於いても応急時の措置改造はなされても本格的な改造（改善計画書にもとづく）という点では、企業の経営努力を超えるに近いものがあったかと思う。

少なくとも現薬事法に適合し、GMPの精神に順応した企業となるために努力を重ね今日に至っている。今年三月末をGMP完全完了として当局は四月一日以降の指導をする様である。薬務局長通知、昭和五一年二月二七日薬発第一七九号による医薬品の製造及び品質管理に関する基準の実態に伴う医薬品製造業の許可申請の取扱いについても、業界の実情を充分勘案の上取扱方と御指導をお願いしてきたが、その取扱いについては薬務局長通知昭和五四年三月一三日薬発第三二九号をもってしめされた、従来のGMPとは今年四月一日からかなりその性質を異なるものとするわけである。

薬事法改正要綱中医薬品の製造及び品質管理に関する遵守事項として、厚生大臣は医薬品の製造及び品質管理を適正に行わせるため、厚生省令で医薬品に関する試験検査の実

施、作業の記録等の文書の作成、その他医薬品の製造に関し製造業者が遵守すべき事項を定めることができるとして、現行GMPのソフト面を重点的に盛り込んで省令及び解釈通知等をもってあたることになる、従来の行政指導とは、大きな違いがでてくる。

ロットの件、使用期限等記載義務の件、記録文書及び保存資料の保存期間の問題、また正当な理由なく承認後三年間製造輸入されないときの承認取り消しの件、苦情処理問題と不良医薬品の承認取り消し、回収、製造販売停止にからむ問題、一般内服固型剤特に生薬を主とした製剤の微生物汚染に対する問題、また直接作業に関連する記録文書の製造標準書、製造管理基準書等の記録内容が細部にわたり、作業員の作業の管理、作業の手順等迄記録しなければならぬ可能性、従来の製造管理者「管理薬剤師」に加え、新たに製造責任者と品質管理責任者が法的にその責任を持たされるハード面に於いても品質管理に直結するものとし承認、許可の条件となるだけでなく、法制的により不十分な面に対して重点的に監視体制をとられる、従来のGMP指導からみると甚

だ強い強制力と罰則規定までもったものとなる。

我々としてはその改善措置の遅れに対しては一日も早く達成すべく、努力を重ねなければならぬ一方、業界実態実情を充分に勘案の上、改正される薬事法に対処し、その取扱方と指導をお願いをしなければならぬ。

何れにしても現行GMP完全実施をベースとして薬事法が改正されてもまた法がその実態にそぐわない面が多々あったとしても、我々企業が、科学技術の向上と管理技術効率向上をめざし技術革新を阻害することなく、医薬品の品質確保が所期の目的を達成するために、企業形態製品構成に応じ、常にフレキシビリティな考え方をもち、適正な医薬品の製造に努めなければならないであろう。

また品質管理と云うことに対し、企業自体が企業責任者と同レベル、同歩調で新たな理解の下に対応しなければならぬときであろう。



# 一九七九年春季 広州交易会に 参加して

(株)津村順天堂

松 林 次 郎

中国交易会参加も、今回で連続五回目となります。

広州へ入るには、香港から入ると、空路上海経由で入る方法がありますが、新たに香港九龍駅から広州直行列車が新設されたので、それを利用して、四月十五日香港入りしました。

香港では、まず中国本土に入るための手続きとして、ミラマホテルでクーポン券を購入します。

従来は、東京の航空代理店がクーポン券を扱っていましたが、今回から中国旅行社扱いに変更されたためです。

その夜、香港の知人と会食し、最近の香港事情を聞かせてもらいました。

最近、台湾の海外旅行の制限が緩和されたため、台湾人の来訪が大変

多くなったこと、以前と比べ、華僑の本土訪問が容易になって、本土の親戚にテレビその他の物品を送ることが自由になったので、かなりの量の物品が流れこんでいること、但し、税金が五〇%もかかるので、香港では個人貯蓄が減少していることなど興味深い話を聞きました。

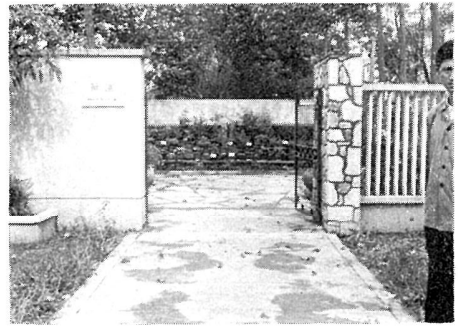
翌日午前十一時三十分、九龍駅に集合し、香港税関のチェックを受け列車に乗りこみました。

今までのような羅胡(ラコ)、深圳(シンセン)の通関もなく、大変楽な旅でした。車内のお茶代は香港ドルで五十セントでした。

広州駅に着くと、直行便のため、駅舎横に通関場が新設され、検疫、



広州中医学院玄関



華南薬用植物園

通関、荷物検査申告が型通り行われましたが、全部済むまでに四十分もかかりました。

宿泊は従来通り、広州賓館でしたが、今回からは、入室申告時に、公安局に提出のために賓館にパスポートを預ける必要がなくなりました。

十七日会場へ。昨年までは薬材部(生薬部)、京果部(食品部)、糧油部(香辛料部)の三部に分かれていただけでしたが、今年は各部が三十以上の分公司に分かれ、どの商品がどの分公司扱いかを確認し、アポイントを取り、要望書を提出するの  
で、初日からあわただしく駆けまわる人たちを多く見かけました。

薬材部は前回までの会場の二階に

移り、各分公司の標示があり、すでに活発な商談が行われています。京果部は三階にありまして、各分公司に分かれています。糧油部は前回通り、少し離れた場所にあります。

今日は第一日目のため、天津、上海、大連の順に、主な生産分公司にひと通り挨拶して回りました。

十八日は、広東、湖北、河西、山東と、順次分公司に行き、商談をしました。

各分公司の先生方は非常に熱心でしたが、日本語の出来る通訳が三名ほどしかいないので、日本側で言葉が出来ないと商談が進まない有様です。中国語の出来る商社員たちが会



華南植物園

場を活発に動き回っています。

午後、華南植物園の見学が出来る  
というので、私も出かけました。

華南植物園というのは五〇〇エーカーの広さがあり、そのうち薬用植物園は四〇〇エーカーありまして、亜熱帯、熱帯植物が多く植栽され、係の人が親切に案内してくれました。

あいにく、雷雨がはげしくて、十分に見学出来ませんでした。が、文革時代に荒廃した植物園も、今では整備されてきている、と係の人が明るく表情で話してくれました。

翌日、中山医学院を訪問しました。学生数は約千名で、西洋医、東洋医、薬学の勉強をしており、海外からの留学生も数多く、日本からも一名来ているという話です。

標本室、薬用植物園を見学したりして、少い時間ながら、十分に懇談できて有意義でした。

一九七六年まで日本から来ていた和漢薬の会報が来なくなつたので、是非送って欲しいという依頼もありました。

また、日本は現代漢方医学について非常に進歩しているので、十分に学びたい、とも言っていました。

今回の交易会及び見学を終えて感

じたことは、外面的には大きな変化は見られませんでした。が、四つの近代化に進もうとする意欲が多くの人達から感じとれたということです。

さらに、会場に中国製の飛行機が展示されるなど、目新しい印象を受けました。

思いつくままに、感じたことを記しました。ご参考になれば幸いです。

## 先輩にきく

〈第二回〉

玉川衛材株式会社

玉川 幸吉社長

玉川衛材株式会社の玉川幸吉社長が、本誌に未だ登場して頂けなかったのは、同氏の大変遠慮深いご性格のためでしたが、やっと今回お出まし下さいました。

神田に生まれ、神田で育つた生粋の神田っ子で、誰からも愛される人徳を持っておられます。功成り、名を遂げてもたかぶらず、庶民性を失わないからでございます。

千代田区岩本町の昭和通り、五年

前に出来たばかりの清楚な十一階建ての白いビルが営業所で、社長ご夫妻はその十階に住んでおられます。とても交通が便利で、快適だそうでございます。

なるほど、山頂の見晴らし台のようで、眺望をさえぎるものは一切なく、東には竜角散さん、西には浅田館さん、大木さんのビルが見え、南は本町界隈が一望に見渡せます。

このあたりは、江戸の名残りの名所の跡が数多く、お玉ヶ池種痘所、千葉周作道場など、なつかしい史跡があります。人形佐七も住んでいたのかも知れません。

弘化二年創業の川魚料理の老舗「ふな亀」も盛業中で、おいしいものが多い所でございます。

同社の歩みを簡単に記してみますと、次の通りでございます。

明治三十二年一月

先代惣右衛門氏、現在地に於て、

家業の織物業より転業し、衛生材料加工業を個人で開業。

大正十二年九月

現社長玉川幸吉氏、震災を機に、家業に従事。

昭和四年三月

玉川合名会社設立。

昭和二十二年九月

株式会社玉川商店に改組。

昭和二十四年三月

衛生材料中央販売業者登録。

昭和二十九年十二月

玉川衛材株式会社と改称。

昭和三十四年六月

医薬品の製造開始。

昭和四十九年二月

本社屋ビル完成。

昭和五十二年六月

足立区に工場新設。

昭和五十四年一月

創業八十周年を迎える。

—— 本日はお忙しいところをお邪魔しまして申しわけありません。「先輩にきく」という企画として業界の、しかも現役であられる先輩に何かお話を頂けたら幸と存じます。

玉川 私など先輩という柄ではご



ございませんし、何も申しあげること  
はございません。

—— 社長さんは生粋の神田ッ子  
とうかがいましたか。

玉川 はい、明治四十二年九月、  
繙帯屋の伴として、この地に生まれ  
ました。

商売が好きでしたので、京華中学  
を中途でやめまして、この道ひと筋  
に、今日までやってまいりました。

—— ご先代は埼玉でいらっしや  
いますか。

玉川 はい、父は惣右衛門と申し  
まして、埼玉県岩槻で、ガーゼと蚊  
帳の製造販売をしておりました。  
蚊帳は日本橋の西川さんに納めて  
おりました。

明治三十二年、東京に進出するた  
め、現在地に店舗を持ったわけでご  
ざいます。

母（とき）は大変商売熱心な人で  
した。父が健康を害してからは、女  
手に陣頭指揮の采配を振るって、店  
をしっかり守っていました。

礼儀正しく、謙虚で、信仰心の篤  
い人で、お不動さまのお詣りは欠か  
したことがありませんでした。

空襲がはげしくなってきたから、市川  
の義兄宅に疎開中、七十八歳で亡く  
なりました。

家内も偶然同名（トキ）でして、  
お嫁さんなのに、この地が気に入  
まして、一歩も離れようとはしない  
のですよ。（笑）

家内は私と同年で、新内小唄峰村  
派の名取りでして、「万寿玉」の名  
を持っていきます。

時々、三越ホールや、証券ホール  
に出演しているようです。

（のちほど令夫人の「千両職」の  
一節を聴かせて  
頂きましたが、  
張りのある、み  
ずみずしいお声  
で、とうてい古  
稀とは思えませ  
ん。瞳の澄んだ  
新潟美人でござ  
います。）

—— ご苦労  
話を一つ聴かせ  
て下さい。

玉川 私の二十一歳のとき、横山  
町の川辺ハンカチ店に入って、みっ  
ちり商売のコツを勉強いたしました。

それが、当社のギフト用品部門の  
開発につながっているわけです。

—— 戦時統制時代はどのような  
状態でございましたか。

玉川 ご多分に洩れず、統制とな  
りまして、私は全国脱脂綿配給統制  
組合副理事長や東京繙帯元売株式会  
社常務理事などをお引受けしており  
ましたが、召集となり、戦地に六年  
間行っておりました。

—— どの方面でございませうか。

玉川 大連に長く居りましたが、  
南支へも参りました。病院船に乗っ  
ていたこともございます。



お玉ヶ池痘所跡の玉川社長

塩谷さん（本郷老岐坂の塩谷勝保  
商店社長）が薬剤官でしたが、私は  
塩谷さんの当番兵でした。

昭和二十一年、やっと復員し、内  
地に帰り、もとの仕事に戻ることが  
できました。

—— 主な製品はリバガーゼで  
ございますか。

玉川 昭和三十五年、リバガーゼ

を発売しました。  
のちにタマガワ・新リバガーゼと  
なって、今でも会社の「命」でござ  
います。

タオル、ハンカチのほか、台所用  
品として、台ふきんフキキなども  
発売しております。

—— ますます多角経営で、お盛  
んでございますね。

聞くとところによりますと、ご令息  
たちが中々のアイデアマンだそうで  
ございますね。

玉川 長男博之は早大を出まして  
専務をやっており、次男幸彦は国際  
商大を出まして、営業部長を担当し  
ております。

—— パッケージを拝見しますと  
とてもすっきりしていますね。

玉川 そのほかに、娘が三人おり  
ましてね。当時有名だった映画女優  
の八雲恵美子から長女を恵美子、次  
女は同じく女優の高峰三枝子から三  
枝子、三女も女優の三宅邦子から邦  
子と名付けました。

もっとも、男の子は易者につけて  
もらいましたけれど。（笑）

映画俳優といえは、佐野周二が町  
内の頭（かしら）の息子で、近所に  
住んでいました。

今川小学校で私の後輩なんですが

映画界に入つて、上原謙、佐分利信と並んで三羽鴉とうたわれ、大変な人気でした。この佐野周二が出征するときは、えらい騒ぎでして、神田駅に東京中の愛国婦人会が集まつたということですよ。(笑)

—— このあたりは震災を受けられませんでしたか。

玉川 震災のときは、私は出征中でしたが、震災では早く焼けてしまいました。ちょうど風下でしたので、本町の薬品倉庫から出た火の廻りが早くて、私は手提金庫を風呂敷に包み、首に結いて逃げました。

—— ご趣味のお話をお聞かせ下さい。

玉川 趣味と申しますと、お酒でございませぬ(笑)しかし、何といつても最高の趣味は商売ですけれども。

戦前、大正末期、昭和初期からずっと業界のメーカー様、問屋様のご恩を受けてまいりました。

いくたびか紆余曲折はございましたが、本年で、おかげさまで創業八十周年を迎えることができました。まことにありがたいことでございます。私は義理人情のないことは納得できないたちでございます。

これからも、謙虚に、真心をもつ

て、愛される人間になりたいと念じております。

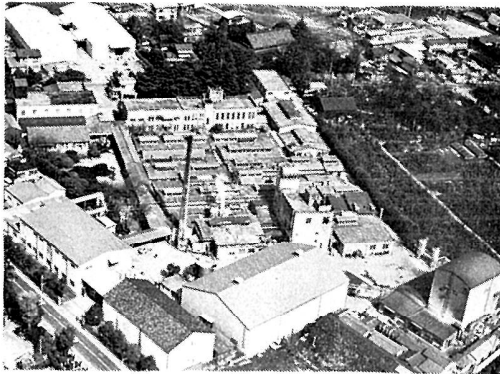
—— どうも本日はありがとうございます。

### — 近代工場めぐり (13) —

## 和光堂(株)

東京工場

東京都 調布市



今年には花の季節が長い。暖冬の年

はいつもこんなものと言う。その桜の花びらの舞う中に、そこだけ、うっそうとした林が古めかしい建物を囲んでいる。「最近ではテレビ映画の撮影で、よく地方の警察などに使われるんですよ。」と原田工場長は笑う。ひんやりとした応接室に通された。「ここが取り調べ室ですね」とあたりを見回す。四方の壁には額、棚にはカップ、トロフィーの類がところせましと並ぶ。人材銀行、血液銀行、勤労保険に関するものの表彰状や感謝状。近くのボーリング場のものもある。

「私は元來人事屋なんですよ」と言われると、原田工場長がゆつたりと腰をおろされると、「さあ、何でも相談のつて上げますよ」と言うように、やさしい眼が微笑む。和光堂と云えば、十人が十人、元氣な赤ちゃんを連想するだろう。そして赤ちゃんと云えば、一やさしく一ていねいに一である。その優しさ、丁寧さは、そのままここに働く人、一人一人の性格になってしまったように見える。玄関を入ったときの印象である。

その性格はどのように形作られて来たのか、同社編集の社史「和光堂のあゆみ」によって容易に推察する

ことができる。

和光堂を支えているものは、乳幼児の健康増進に対する熱意と言うより、むしろ一途な使命感である。たとえば、コナミルク(発売当時の商品名キノミール)ひとつとつてみても、その開発の動機は、創始者弘田つかさ博士の医師としての責任感と暖かいヒューマニズムである。大正時代には現在のようになしつかりした医学的基盤は確立されていなかった。平均寿命も低く、死亡率も高い。いきおい、そのしわよせを受けるのは、抵抗力の弱い新生児、乳幼児である。おそらくは、何百、何千といういたいたいな乳児の弱りおとろえてゆくのを目のあたりにしながら、博士は胸の中で、何とか助ける方法をと、日夜模索されたであろうことは察するに余りある。そして誕生したのが、我が国で最初に開発されたキノミールである。現在の育児粉乳に較べれば、その成分も製造方法も単純なものであったかもしれない。しかし、そのバランスのとれた人工栄養は、乳幼児を細菌から守り、母親達の苦しみを軽減した。

シッカロールにしても同様である。赤くただれた乳児の肌を、母親と同じ眼で見、同じ気持で感じてこ

そ、たかがアセシラズと言う以上の多くを生み出し得たのである。この様な姿勢が、単なる商品の売買を超えて企業と消費者の間に、信頼し、信頼される関係を形作って来たことは想像に難くない。

この弘田博士の思想は、大賀初代社長をはじめ、その後代々の経営者や社員の一人一人に受け継がれている。

しかし、前出の「和光堂のあゆみ」によれば、その道は決して平坦なものではなかった。

昭和十七年四月と言えば、ドゥワトル將軍指揮のB25編隊が、当時帝都と呼ばれた東京の初空襲を敢行し皇軍を驚かせた頃である。この頃、大賀社長は胃腸を害して入院され、三ヶ月後、六十七才で死去された。

戦火は日毎に烈しさを加え、工場からも若い人手は一人二人と消えて行った。しかし、不幸中の幸は、工場そのものに対する被害はなく、激しい空襲の中で、和光堂の育児製品は、一日も休まず生産され続け、そしてそれらの製品は、日本人にとって銃や大砲にも増して必要なものだったのである。この過酷な条件の中で操業を続けることができたのは、従業員の勇氣と熱意によるものであ

る。彼等にとって乳児の泣き声は天の声であった。

ここで和光堂の労使関係について触れておかねばなるまい。大賀初代社長のヒューマニズムは、決して企業化して売りに出すためのものではない。和光堂が設立され、人々が和光堂ファミリーに関与するようになって、社長の眼はその人々にも暖かく向けられる。もともと、初代社長

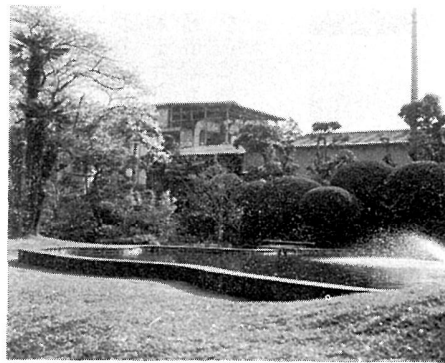
の実践した種々の制度はその当時からあったからこそできたものも多く、現在ならば、労働関係法やプライバシーにかかわるなど問題になる点多い。しかし、それらはすべて社員一人一人のことを思って作られた制度であり、また従業員の方も、その意図を素直に理解していたからこそ、丁度、和光堂と消費者が、製品の需給の関係から信頼の関係へと発展したように、社内に於ても信頼の原則が自然に出来上がったのである。

戦中、戦後の混乱期に、従業員の親睦団体であった「和光倶楽部」は、自発的に土曜半休の返上、勤務時間の延長を実施し、生産性の向上に努めた。その精神は大賀社長の「和光読本」にあるように、「産業に従事し、それに真剣に取り組むことが社会に貢献する道である」との教

えを反映している。

関東大震災にも、大賀初代社長の他界にも、そして大空襲にも耐えて来た和光堂であったが、敗戦直後の混乱期には、あまりにも激しい環境の変動に、遂にその土台をゆすぶられる。

太平洋戦争末期の昭和二十年三月



工場中庭

和光堂の足を、さらに引っぱることになる。その理由のひとつは、ペニシリンの新しい製造方法が開発されたために、相場が混乱しはじめ、設備投資の効率が極端に低下したこと。さらに、これは和光堂のイメージを浮き彫りにしていると思うのだが、育児製品メーカーとしてのイメージが、医師や消費者に固定していることが、新薬進出への思わぬ障害となったのである。

ペニリンに止まらず、この時期の和光堂は、実に様々な分野への多角化を指向している。和光堂に限らず、この時期が、わが国の企業のコングリマリット化への幕明けであった。ひとつには、一般に広く浅くと言う消費動向があったかもしれない。専門メーカーとして根を掘り下げより、広く網をはって、消費者との接点を増やす。当然の結果として、それぞれのマーケットで、二重、三重のオーヴァラップが起り、過当競争がはじまる。和光堂も昭和二十五年、育児製品の本格的生産を再開したものの、かつてのマーケットを回復できず、これも大きなダメージになった。そして翌年二月、和光堂は一敗地にまみれたのである。

こうして現在の時点に立って眺めれば、和光堂の栄光とつまづきの要因は比較的容易に指摘することができ。しかし、その渦中であつて、病巣を客観的に指摘し、見事な手腕で手術をやつてのけたのが、新社長の鈴木万平氏である。(本号24頁、松田金之助氏の「兼と共に四十有余年」参照)

鈴木新社長は、先ず多角化指向を撤回した。そして勇氣ある、最も苦しい決断は乳製品部門の切り捨てであつた。育児製品メーカーからミルクを取つてしまつたら何が残るのか。しかし、大目的のためには、たとえ一時的にせよ、業績の上がらない部門を捨てるよりない。同社の乳製品部門は関係会社の委託生産に切り替えられた。キノミールが何百万の健康な乳児を育てて来たことを思い、そこに働く人々の思いはどんなであつたらう。

しかし、その犠牲は報われた。鈴木新社長の直感的とさえ見えたる再建策は、見るみるその効果を發揮しはじめる。それまでの株式会社和光堂はその債務の整理に専念し、別に新光堂株式会社が設立された。

この時期に和光堂を支えたのは、シッカロールである。シッカロール

のパッケージも現在ではすっかり改められ、スマートなものになつたが、多くの人のイメージの中には、あの紺地に白い格子縞のデザインが残されていると思う。

その格子縞のデザインも五十八年間生き続けた。五十八年と言えはほ三代にわたる乳児を育てて来たことになる。親から子へ語り継がれると言ふよりは、自分の中に残つていたイメージが親となつたとき極く自然に呼び起こされるわけだ。しかもその際に、母親に違和感を与えないように、イラストレーションのヘアースタイルなどに現在感を表現していることは、実に心憎い程のマーケティングである。そのデザイン

も現在は一新され、それが受け入れられたことは、勿論その品質の確かさ、和光堂のブランドに対する信頼感などが大きな理由ではあるが、それにしても、過去と現代の生活感覚の差がいかに大きいかを物語つて興味深い。シッカロールの名前は、固有名詞でありながら広辞苑に収載されるまでになつた。

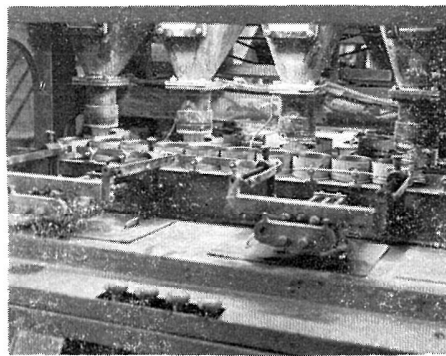
一方、業界内でシッカロールと言へば、春の特売が名物である。かつては初荷として始まつたものだが、現在では三月に行なわれている。昭和三十年代の初期には、現在より交通事情もゆるやかで、のぼりや小旗を立てた荷を満載したトラックが、三十台、四十台と早春の銀座通りを

パレードし、銀ブラ族の眼を見はらせたことなど、古き良き時代をほうふつとさせる。

今回の工場見学で、私達は主としてこのシッカロールの工程を見せて戴いた。シッカロールはタルクを主成分とした粉末で、当然のことながら粉塵による工場内とその周辺への環境的影響が大きな問題である。しかし、私達が工場に近づいても、また工場に入つても、空気は澄んでいて、粉っぽさは一向に感じない。ご案内いただいた吉田製造課長のお話でも、矢張り粉塵については苦勞が多いらしかつたが、しかし現在の対応策はかなりの成果を上げていますように見えた。第一に、作業室内の



混合機操作盤



シッカロール充填機

空気は強制的に吸引され、散水装置をほどこしたタンクの中に導かれている。このタンクで浮遊粉塵を洗い流し、清浄な空気を排出する。第二に従業員の配置は常にローテーションされ、同じ従業員が長時間の中で作業しないようにシフトされている。このローテーションはシッカロールの工程に限らず、一部の専門職を除いて全工場的に実施されており、全従業員が同一の条

件で作業できるよう考慮されている。第三に、毎年一回全員を対象に特別健康診断が行なわれているが、かつて塵肺その他で疑問視された例は皆無とのことである。

シッカロールの製造工程は比較的标准のものではあるが、長い歴史を持つ製品だけに、ラインは整理され、アテンドする女性達も皆一様に余裕を持って作業し、流れ作業に見られ勝ちなモダンタイムス式のせわしなさは感じられない。

簡単にラインを説明すると、入荷した原料のうちタルクは、工場に隣接した釜で全量を殺菌される。秤量された原料は、真下の地下室に設置された混合機に落とし込まれる。この混合機の操作盤は秤量室にあり、原料投入時にプログラムしておけば混合、篩過作業は自動的に行なわれる。篩過後、コンプレッサーで充填機に送られるが、この段階で中間品検査が行なわれる。充填は二段階になっっている。即ち、容器に全量の八十%程度を充填し、次によりデリケートなオーダーで残量を充填する。更に最終的に一定の誤差範囲を超えたものは払いのけられるようにラインからはずされる。この工程をしぱらく眺めていると、奇妙なほほえま

しさを感ずる。大きなロボットが、一見無器用な手つきで慎重に缶に粉を入れ、その缶がラインからはずされるときは、さも残念そうに自らの非を認めると言った感じだ。作業場ではシッカロールの二つのラインが両方とも稼動していたが静かだっ



た。

そう言えば、東京工場全体に、人影はまばらに思える。二百八十人の従業員は、この二万平方米の敷地の中に吸収されてしまう。二十余坪に一人の作業員。町工場のせせこましい過密さに較べれば実にうらやまし

い限りだ。このシッカロールの作業場に至る通路の脇にも、築山や池のある芝生の庭に桜の花が散っていた。

しかし、原田工場長の話によればそれでも尚、スペースについては悩みがあるようだ。

かつて開場当時の周囲は水田と武蔵野の林であったこの地域にも、工場の全景写真に見えるように、いわゆるミニ開発の波がおしよせており現在は住居地域に指定されている。したがって、たとえ自社の敷地内でも、作業場の面積を拡張することはできないわけで、GMPについても既設の作業室のうち四室を改装して昭和五十年に医薬品製造部門を移転した。しかし、現在和光堂の全製品のうち、医薬品と部外品の占める割合は二十%程度で、苦労のGMP設備も年間フル稼動とはいかない不経済な状態である。「そのスキマをいかに有効に生かすかが当面の問題なんです。」と原田工場長。

この医薬品製造セクションを活用するため、三十名の研究スタッフはより付加価値の高い製品の開発に努めていたが、五月初旬より製造設備のセティングを開始し、近く医家向け新製品の発売を予定している。

しかし、原田工場長の悩みは尽きない。「かつては、新生児の数は毎年二百万は有ったはずなんですよ。それが今ではどう見積っても百七十万程度しかない。どうも困ったものですね。」たしかに和光堂のシェアを考えれば、この差は大きいに違いない。

そんなわけで、従来の育児製品メーカーとしての和光堂から脱皮して成人、老人にまでその対象を拡げることが、当面要求される課題で、現に大豆、ハトムギなどをベースにした健康食品の分野でも、着々と地歩を固めつつある。

一方、この東京工場の置かれた立場にも、放置しておけない幾つかの問題がある。そしてそのすべては、周辺の人口密度の上昇に関連がある。

この場所に東京工場ができたのは当時の荒川村長の誘致による。前述のように、その当時は水田地帯で、農民の一部には、工場の操業が米の作柄に影響するのではないかと心配もあったようだ。そこで、万一作柄に悪い影響があった場合、その差額を東京工場が補償する約束があった。結果として、悪い影響は出なかったが、益暮には排水口の掃除代と

して、何がしかを包む習慣があった。現在でも最も大きな問題は水である。食品関係の比重が大きいので水の使用量、排水量とも多く、例えば下水道料だけでも大きな負担になってきている。

大気汚染については、当局との間に直通回線を設け、スモッグ警報発令と同時に良質重油に切り換えることにしている。

騒音についても、五十ホン以上になる作業では、通常の三交替、二十四時間間制を変更して二交替とし、深夜の作業を中止することになっている。

しかし、これらの公害対策は、東京工場と地域行政との協議によって実施されていることで、周辺住民からの苦情はまだ受けたことはない。むしろ和光堂東京工場の存在は、現在でも地域生活に極く自然な形で融けこんでいると言える。

二百八十名の工場従業員のうち、百十名が女子であるが、その約半数に当たる五十名が、地域の主婦を主体としたパートタイマーである。彼女達の勤続年数は他の女子正社員より長いと言う。工場では、これらのパートタイマーに正社員と区別せず各サークル活動への参加を呼びかけ

ており、現在十一の体育部と十二の文化部が盛んな活動を行なっている。これらのクラブは、それぞれが地元のサークルと交流することで協調の輪が拡がり、和光堂のイメージの向上に貢献している。

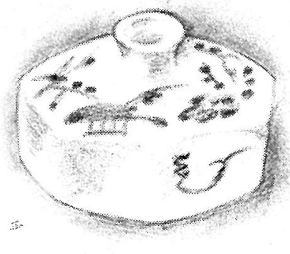
また、近隣の小中学校の社会見学として毎年何度か、可愛らしいお客さん達の訪問を受けるし、工場の敷地内にある二面のテニスコートでは隣りの桐朋学園の学生達が練習に汗を流している。

しかしながら、もう少しマクロ的に生産の現場である工場と、生活の場である地域社会の接点を観察すれば、そのギャップは宿命的に拡大してゆき、やがて相互の妥協は限度に達して、感情的に困難な時期を迎えるであろうことは、無数の前例によって明らかである。

和光堂としてはその将来を予見し昭和五十二年十二月に栃木工場を建設し操業を開始した。現在ではまだわずかな社員が作業に従事しているにすぎないが、十年後を目途にメイン工場に成長させることも計画している。

創業以来、和光堂の目的は健康な子どもを育てることであった。その目的のために、どれほど多くの苦し

みや悩み、そして危機を乗り越えて来たことだろう。キノミールやシッコロールで元気に成長した人々は、より快適な生活を求めてこの武蔵野の水田地帯をも造成し、続々と住んで来ている。これから先、この東京工場がどうなるかを知ることができなかったが、いずれにせよ、環境保



氏子松石置玉カット

善のために、東京工場は日夜奮闘を続けている。

工場の正門を出て二十米も歩けば沢山の作業場の屋根も集塵塔も、すっかり木立にかくれてしまい、うらかな春の午後の陽の中に、商店が軒を並べていた。

### 国連児童権利宣言要約

- 一、すべての児童は次の権利を、人種皮膚の色、性、宗教、政治地位に関係なく平等に受けることができる。
- 二、自由と尊厳の中で、自分達が成長できる特別な保護や機会が与えられる。
- 三、出生時から名前と国籍を有する。
- 四、社会保障の恩恵を受ける権利を有する。
- 五、十分な栄養、住宅、医療、レクリエーション等の社会保障を受けられる。
- 六、肢体不自由児は、特別の養護を受けられる。
- 七、両親の保護と責任のもとで成長する。
- 八、無償の初等教育、能力を開発する均等な機会をもつ。
- 九、略害などの時に優先して保護と救済を受ける。
- 十、あらゆる放置、虐待、搾取から守られる。
- 十一、あらゆる差別から保護され、平和と四海同胞の精神のもとで育てられる。

# 国際児童年に

## あたつて

### 家庭薬業界の

### 役割を考える

出席者

和光堂広報部長

安田 英夫

宇津救命丸企画部長

広瀬 鉄曹

イチジク製薬取締役

見上 治

アドバイザー  
保育科学研究所長

川合 月海

司会 弘報委員会

昭和五十四年三月二十七日収録

—— 今年、国際児童年というこ  
とで、各省庁をはじめ諸団体がそれ  
に関連したいろいろの事業を企画し  
ておられます。

そこで本日は当組合員の中で乳幼  
児関連製品を製造しておられる皆さ  
んにお集まり頂きまして、いろいろ  
とお話を伺いたいと存じます。

なお、アドバイザーといたしまし  
て保育科学研究所長の川合月海先生  
にご参加頂いております。

それではまず国際児童年というも  
のをどうとらえておられるかとい  
うことから入りたいと思います。

安田 国際児童年というのは国連  
の児童権利宣言が採択されて二十周  
年を期に、認識を新たにしようとい  
うことではないかと思ひます。

国際ということが付いているの  
で、日本だけでなく世界に目を注ぐ  
ということの様ですが、テレビ画面

のバックには発展途上国の子供が出  
ているのを見ると、日本人が発展途  
上国に目を注げという訴えかなとい  
う気がしません。また、日本でのス  
ローガンが「わが子への愛を世界の  
どの子にも」となっていることから

も我々が家庭で自分の子供に愛情を  
もつように、世界のどの子にも愛を  
注ごうという訴えではないかとも受  
けとれますね。それから国連の事業

の中心機関としてユニセフが指定さ  
れています。ユニセフと言います  
と、我々の年代にとっては戦後すぐ

脱脂粉乳をもらって赤ちゃん達が救  
われたことが思いだされます。

あの時のお礼を、我が国が豊かにな  
ったから恵まれない発展途上国へ

返すするということの訴えでもある  
のかなという気がします。

日本ばかりでなく世界の子供に愛  
情を注ぐということをあらためて考  
えるのが国際児童年というものかな  
というように思ひます。

この国際児童年と自分の企業との  
結びつきということで考えますと、  
幸い乳幼児製品を取扱っております  
ので、日本の赤ちゃんの健康のため  
にということと、そういうものを世



川合月海先生

界の恵まれない子供達に提供して  
(商売でいえば輸出になります)

使ってもらおうという様なこととな  
りになってくるのかなと漠然と考  
えているところです。

広瀬 安田さんがおっしゃった様  
に、国際児童年の国際という意味は  
日本ができる時に、発展途上国の子  
供達のために役立つということでは  
ないかと思ひます。

私どもの製品につきましては日本  
人専用の薬なので、輸出といったこ  
とは考えておりませんが、我々なり  
に根本療法的な意味で日本の子供の  
健康に役立つようにPRしてゆきた  
いと考えています。

見上 おふたりのお話で言い尽さ  
れていますが、私どもの場合も日本  
国内の特に乳幼児が中心になってく  
るようですね。

川合 国際児童年というのは世界  
中の子供があまり幸せではないとい  
うことをふまえて我々大人が今まで  
何をしてきたか、これから何ができ  
るかということを考えることではな  
いかと思ひます。

日本人はお祭り好きという悪いく  
せがあつて各省庁とも行事の頭に国  
際児童年記念と付けすぎる傾向が  
あるようですね。我国の場合確かに  
子供達にとって物の面では豊かにな  
つたといえるでしょうが、心の面  
はその支えがまったく取払われてい  
る様な状態ではないでしょうか。

国際児童年のとらえ方というのは  
難かしいことですが、多額のお金を  
使ってお祭をやることもけっこうで  
すが、何かそこに空虚なものを感じ  
るんですね。子供の気持を本心に察  
してやることに児童年の意味がある

のではないでしょう。日本の子供達は心の面ではひよっとしたら、発展途上国の子供達より不幸せかもしれないという気がしますね。

**見上** 先生のお話で思い出しましたですが、私、最近、気にかかりますのは、近頃の若い母親は母乳より人工乳でお子さんを育てられる方が多いようですが、その人工乳も抱いて飲ませるのではなく、赤ちゃんがひとりで飲んでいる様な姿を時おり見かけるのですが、こういったことも子供の将来にとって何等かの影響があるのではないかと気がしますが……。

### 親子の接触不良

—— お話が親子の接触ということに入っていました。川合先生は三年ほど前から「ママさん一〇番」というテレホン・サービスを開設しておられ、多くのお母さん方の相談相手になっておられるわけですが、最近の親子の接触上の問題点についてはいかがでしょうか。

**川合** 一日に多い時で三十件位、少なくとも五〜六件は相談電話があります。最初質問として出てきますのは、六割が体に関するもので、残りがしつつけとか心の歪みといった

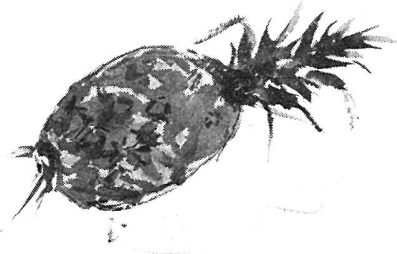
内容なんです。ところが話を聞いてみますと、体だと思っておられる問題の多くがその根は心にあるんですね。まア純粋に体からきている問題は全体の二割程度しかなく、八割は親子の接触不良による心の歪みが原因といえます。

確かに我国は物の世界では潤沢になり、発展途上国に物を与えられる力は持ったと思いますが、電話相談の窓口からお母さん達の様子を見ておりますと、心はまったく貧しい状態です。子供の心を生かし、伸ばそうなどという考え方はみられませんが、子供を本当に幸せにするためには物があってはかえって良くないという面が多くあるわけですから。

このあたりの問題点を私達、特に保育をする立場にある者は児童年には振返ってほしいと願っているのです。物の世界だけを考えていたのでは子供は絶対に幸せにはならないということ。大体「ママさん一〇番」などといった相談電話が流行すること自体が日本の心の貧困さを物語っているんじゃないでしょうか。

**安田** 物にとらわれるということはおっしゃる通りですね。私どもでも電話相談を受けているんですが、

これは製品に電話番号を書いてあるものですから質問は物に関したことが多く、付带的に心の問題がでてまいます。物についての質問には我々も商売ですからうまく答えているつもりですが、付带的にでてる心の問題にふれた相談に対しての答えが非常に難かしいですね。先生のところではそういった問題にどの様に対応しておられるんでしょうか。



氏 枝 静 林 建 切

物が無かったら何も存在しないわけです。生命も物です。物というのは心の流れのひとつの状態にすぎないだけです。もっと自信を持って頂きたいと思います。

ところが物を持っておられる企業さんに手前味噌が多すぎる点が気になります。この形だとそれを聞いた需要者側はそれを眉唾だと受けとめるんですね。その時に「総合する」「足りない所を埋める」という考え方を企業の方がもたれると、その持っておられる物が生きてくるんだがね。

例えば、ここにおいで各企業の方が自社で持っておられる製品を、「これが良いんだ、これで完全だ」という主張をしておられると、大衆はついて行けないし、不安になるんです。ところがこれをいくつか組合せますとね、ものすごい生きる力になるんです。そうなればお母さん達にとっては大変に助かりますし、それによって子供達も幸せになるわけです。もうすこし細かく言いますと、例えば和光堂さんのミルクとイチジクさんの浣腸というのは当然関係があるわけです。それから、宇津さんの救命丸とか救心さんの小児丸というものを私は細胞の賦活剤



だとみているんですが、細胞を賦活しなれば、どんなに食べたって消化吸収できないわけです。これら三つの製品がどこかひとつの窓口で総合して利用されたら大きな力になりますし、お母さん方にとって助かると思うんですよ。企業にとってはできる事とできない事があるでしょうが、少なくともその位の視野の広さがほしいというのが、私達実際にお母さん達に接触している者として希望していることなんです。

それから薬業界ではやっておられないでしょうが、歩行器というのがありますね。あれは子供が四ヶ月位になりますとよく利用されていますが、心の面からみますと、まず「ヤル気」ができなくなり、「根性」とか「頑張り」といったことが身につかなくなりますと、ある種の肉体的支障も起しているんです。ところがこれが年間百万台も売れているんですからね。私は常に子供の側からものを言っていますが、企業の方は「これは便利で……」といった利点しか言わず、マイナスの面には触れないでしょう。どんなにすばらしい物を持っておられても、それが最終的に子供の心を育てる時にどう使っているかという使い方を教えなければ

いけないんじゃないでしょうか。

安田 総合した物の考え方というのはおもしろいお話ですが、母親達はそれをどの程度理解するものでしょうか。

川合 私は電話相談の中で場合によつては具体的に商品名をあげて説明します。本当に緊急にその状態をなんとかする必要がある時はこれとこれを使いなさいという様に言います。心と言いましても体が痛んでいる状態ではまず体の痛みをとつてやる必要があります。

しかし、その時にこれは一時しのぎであつて、基本的には心の問題の接触不良が原因ですから、これからはこうしなさいというように指導します。それから理解の程度ですが、これは受取手の欲求によるんじゃないかと思えます。と言いますのは私は年間百回以上全国で講演をしているんですが、大都市の母親は日常生活情報過多になっていきますから、私の話を猜疑心をもって聞いています。また新しい学説かといった程度です。ですから話を話としてだけ受取つて、おそらく実行していません。ところが、地方のお母さん達はすぐに実行してくれて、その結果がどうだったといった手紙をくださる

方が多いですね。

相談の電話をかけてこられる方や相談所へみえる方は本当に痛みを持つておられるので、理解されると対応も早いですね。それに対して自分の育児はこれで良いんだと思つている人の場合は子供にどんな問題があつてもなおしようがないですね。結局、欲求の度合によつて理解度と違うのは違つてくるんだらうと思えます。

#### 信頼されるということ

——その理解ということですが、お手元に配布させて頂いたアンケート結果（熊本市で育児についての講演会に参加した母親を対象としてとつたもの）でみますと、育児についての知識を得ている情報源として最も多くあげられたのが育児書なんです。この辺に問題があるように思いますが。

川合 お母さん達が育児書を読んで覚えるのは知識なんです。言葉換えれば、ひとつの理論なり方法をただ頭の中に入れてにすぎないわけで、それで子供が育つというのは大きな間違いでして、子供は知識ではなく知恵で育てるものでしょう。知恵というものは動きの中で出

てくるものとして、覚えているだけでは何の役にも立たないんですね。

よく知識を沢山もてば何んでもできる、体が動くと考えておられる方が多いんですが、あれは間違いでして知識が多くなればなるほど、迷いが起り動きが鈍くなりますから問題の解決がし難くなるのです。知識過剰がノイローゼを起していることが多いですね。このアンケート結果の様に過半数の人が育児書で情報を得ているということ自体が異常だと言つてもいいでしょうね。

安田 育児書というのは自分の子供にあてはまることとどこにあるか探すんだそうですが、それが見つからないそうですね。一般的なことが書いてあつても、いざ何か問題があるという時には役に立たないようですね。そこですぐ医者へとんで行くということになるのではないのでしょうか。

川合 おっしゃる通りですね。心というものをみますとね、物の動かし方が下手ですと心までおかしくなつてしまふ。ですから、物が悪を作つているのではなく、それを動かしている人の側が問題なんですね。そうさせないために企業の方も、我々の様な立場の者も何が大切

かということをはわからせてあげられる様に力を結集できたらすばらしいことですね。

安田 そうですね。

川合 薬業界の場合はその窓口ですてに持っておられるんですね。全国で五万店位ですか、薬局薬店が母親のそういう悩みを解く拠点になれば、大変すばらしいことだと思いますがね。

広瀬 いまの薬局では乳幼児製品は指名買いが多いですから、相談される人も少ないでしょうね。

川合 これは薬業界ばかりでなく私がよく「心の医者」になってくれということを言ってるんです。相手が「これをくれ」と言ったら指名してきた時に、それを渡すだけでは単に物の仲介をするだけの存在にすぎないわけですよ。その時にちょっと一言付け加えてほしいんです。それは「こう使ったら害がですよ(失敗しますよ)」という事を言っておいてほしいんです。始めに良いことばかり言いますと、後を聞いてくれないんですね。「こう使えば最高の効果ができますが、こう使ったら失敗しますよ」と言ってもらえれば、母親は一遍に安心して間違った使い方はしませんから、クレームもこないんじゃない

でしょうか。

—— 流通上の問題はともかくとして、川合先生のおっしゃる様に薬局の先生方が、こういった現状をよく見詰めて、立上ってくだされば、大変な力になるということですね。

川合 先程見上さんの言われた授乳の問題ですが、私も同意見でして最近ガソリン・スタンド式授乳というのが流行していると私はよく言うんです。授乳がただ単に物としての栄養物の補給だけでしたらどんな飲ませ方をしてもかまわないでしょうが、心の世界でみますと、ものすごく多くの心の発達促進をしているんです。母親がそういった見方をしたために、飲ませる量だけが問題とされるようなことになるわけですし、その結果が「指しやぶり」などにもつながっているんですね。

安田 人工栄養の場合でも私もも相談を受けた時に、抱いて飲ませるように言いますが、その時左側に抱いた方が心臓の鼓動が伝わるから右側に抱くより良いなんて言っています。先生がおっしゃったように寝かせて飲ませると抱いて飲ませるのでは大きな違いになるんじゃない。

川合 そうですね。自閉症といっ

た情緒障害を起している子供のほとんどがそういう接触法だったという問題がありますね。原因が親にあるのに子供が悪いというわけですから、それこそ子供は自殺でもしなければならぬことになりませんか。先程のアンケート結果の中でも、夫婦と子供だけの家庭より祖父母の同居している家庭の方が、子供にい



広瀬 部長

見上 部長

ふえないという状態になるわけですね。それから湿疹というのは心因性が多いんですね。

—— 便秘と言いますとイチジクさんが関係ありますね。

見上 心因性というのはよくわからなかったんですが。

川合 簡単に言うところじゃないでしょうか。例えば人間が不安を起しますと、腸内のPHがアルカリ化します。そうしますと腸内菌叢が変わり乳酸菌などの動きが鈍くなり、消化力が落ちますので、便秘や下痢が起るわけです。ですから便秘とか下痢は心の安定を計りながら薬を使用することが大切だということですね。

見上 私、お母さん方があまり薬に頼りすぎるとい感じがします。いろいろとお問合せを受けるんですが、便秘してしまった場合はやむを得ないですから薬を使いなさい、しかしその後便秘しないように生活を考えてほしいということを言うわけです。あまり薬に頼らないように特に赤ちゃんの場合は水分不足になり易いから気をつけなさいと言っています。

安田 私どもへは離乳食やミルクの使い方の問合せが一番多いです。

使い方は缶に書いてあるんですが、電話で確かめるわけなんです。

それから医師から指示されたことの確認の電話というのも多いんです。例えば医師から和光堂のこれを使えと言われたが良いかとか、こういう薬を投薬されたがのませてもよいかといったものまであるんです。まあこういう状態をみますと、どこかへ電話して安心したいということなんでしょね。

川合 相談電話の中に食物に関するものがけっこうあります。相手の話を聞いておきますと、それを食べさせたいか、あるいはすでに食べさせているということがわかりますので、入れることより出すことの大切さをいろいろと例をあげて説明するんです。そうしますと、今まで食べさせるというごく一部の問題にとら

われていた母親が育児の全体が見えるんです。そういう面ではイチジクさんの洗腸というのは、その行為はともかくとして大事な世界なんです。

安田 最近、おしめがぬれた時にベルが鳴るといっておしめ警報機などというものが作られています。問題ですね。

川合 馬鹿な話ですね。電話のべ

ルで心臓病が起るくらいですから静かに寝ていたのがおむつがぬれたらベルが鳴るといって不安症状を起しますよ。それからおむつがただ単なる汚物処理の道具ではないということを知ってほしいんです。私もおむつについては研究開発していますが、おむつをつけることはものすごい不快感があるんですから、それをなるべく最小限にしてほしいですね。あの不快感が子供のイライラを生むことになるんですから、ここでも物が心を一緒に作っているという見方をしてもらえれば、おむつの選び方も変わってくるんじゃないでしょうか。

安田 不快感というのは子供自身がそれを感じて、泣き声で訴えるわけですから、情緒発達に役立つのではないんでしょうか。

川合 これは完全な結果がまだできていませんが、乳幼児期にお尻の状態が悪かった子供はある年代になりますと「ずるい」とか「自堕落」というような傾向がでてきますね。

これはどういうことかと言いますと不快な状態で安定してしまいうんです。ですから、すばらしい心の動かし方をするためには、肉体的な逃れ難い不快感はあるべく取除いてやら

なければいけないですね。

有っても良い不快感、ちょっと頑張れば何かできるとか、少し工夫すれば良くなるとかいったような不便とか、量が少ないというような不快です。そういう精神的な条件は与えておかないと伸びないですね。

安田 大体、薬というものは不快



安田 部長

弘報委員 友田

感を取除くためにあるんですからね。

### 総合すること

川合 先ほど総合してほしいと申しましたのは、例えば冬期性下痢と

すから、すぐ抗生物質を投与するんです。そうしますと、腸内菌叢が狂ってしまったて逆の下痢が続くんです。これをなおす方法は単一の薬物ではだめなんです。私の場合は、宇津さんの救命丸の様な細胞賦活剤と、ある種の整腸効果のある菌を使うようすすめるんですが、二日もしないうちに下痢が止まるんですよ。つまり一種類では完全でない、でも二種、三種と複合して使うと生体はすごい活力を持つんです。結果として母親達の信頼を克ち取るのは、例えば宇津さんが自社製品をすすめる時に、他社のこれを併用したら最高の効果を発揮しますよということが言えるかどうかという問題なんです。私は物を使う立場ですから、その子供がなんとか早くなおってほしいと思うだけで、これとこれをどういう理由だから併用したら良いですよと言えるわけです。

信頼というのは、自社にとっては余計なことでも相手にとっては意味のあることがあるんです。それを与えた時に、つまりプラス・アルファを与えた時にはじめて信頼が得られるんじゃないでしょうか。

安田 プラス・アルファというのは、製品だけの提供ではないという

ことですね。

川合 そうです。ついでに言いますと、先程の冬期性下痢の場合はまず水を与えることなんです。

そういう子供の場合、肌がカサカサして水不足を起しているんですね。その次に皮膚マッサージをかならずやらせます。胃腸というのは皮膚そのものでもあるわけですから胃腸を活発にするのは外側の皮膚をマッサージすれば良いわけなんです。この水分補給とマッサージで相対に頑固な下痢や便秘もなおります。その時に救命丸の様な細胞賦活剤を与えれば、より早く症状を改善できるわけです。

広瀬 大変に参考になるお話ですね。私どもにも一日に数回相談の電話がかかってくるんですが、そういう時に先生のおっしゃった様なことを少しでもアドバイスすると、相手の態度が変わりますね。

川合 それをやりますと、相手はその製品なり、会社の信者になってしまうということですね。

広瀬 しかし、最近では簡単に電話ができるのですから、こんな事かという様な内容でも電話をかけてきますし、それも能書を読めばわかるはずの質問が多いですね。

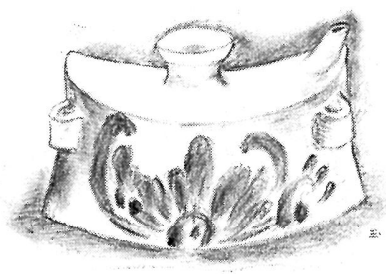
昔だったら自分なりに能書などを読み調べてから問合せをしたことが、何も見ないで、耳で聞いて処理しようという人が多いですね。

川合 私思いますのに、それには犯人がいますよ。いわゆる指導者先生といわれる人達、先輩達が犯人じゃないでしようか。と言いますのは、若いお母さん達がものを知らないという前に、教えていない、教え方が下手だという問題がありますね。それはそういう人達が物事を相手に教える時に難かしい言葉を使えすぎますね。難かしい言葉を使えば、相手は難かしく受取ってしまうんです。ですからノイローゼの母親を作ったのは、やはり指導者達でしょうね。私も反省しているつもりですが……。

——お手元の川合先生が書かれた「目で見える楽しい心の育て方」という本の「目で見える」というところがポイントじゃないかと思うんです。この本はたくさんイラストを使っておられますが、もしこれを全部文字にしたら、劇画世代といわれる若いお母さん達は読まないんじゃないでしようか。ですから薬の使用上の注意にしても、「読まないから悪いのか」「読ませ方が悪いのか」

ということになれば、やはり「どうすれば読ませられるのか」ということにはなるのではないかと思います。

安田 私どものシッカロールの様な簡単なものでも使用上の注意というのがあるんです。例えば粉が飛ばないように使うとか、たくさん粉をつけずに、薄くのぼして使うようにといったことが書いてあるんです。



ガット 玉置石松子氏

が、そういうことが少しでもお母さん達の注意をひいて、もっと大きな問題をひき起こすことを防げればと考えているわけです。

川合 薬の使用上の注意というのは一言でいえば、「こういう使い方をすると害がありますよ」ということを知らせるためのものだと思います。

す。そのためには再三言うようですが、「こう使うとこういう害がですよ」ということをはっきり言ってほしいですね。そうすればかならず読む気になるはずなんです。それからもうひとつ、これはコッなんですすが、その物の関係する相手側のことを言うの良いんです。

シッカロールの場合であれば、肌の持っている恐しさや大事な問題を一言ご注意頂ければ良いんです。

そうすれば、シッカロールだけでなく、おむつや入浴といった肌全体の管理に心がいくんですね。

肌というのは人間の情緒とすごく関係があるわけですから、「肌を大切にしてくださいよ」という一言が、シッカロールを売っただけでなく相手側に心の満足を与えることになるということなんです。さらにそれがスキン・シップの大切さまでわからせることができれば、「心の医者」の役目を十分果たしたことになるわけです。

——本日の座談会は「国際児童年にあたって家庭薬業界の役割を考える」ということをテーマとしたわけですが、最後に川合先生に一言お願いいたします。

川合 国際児童年というマクロの

世界と、例えばとなりの家との接触といったミクロの世界は同次元のことなんです。この両方が一緒に考えられる様な国民になった時に、日本は児童の天国になるということではないでしょうか。

それから、合理的な考え方が世の中を支配していますが、この合理的な考え方は余分なものは捨てるという事です。ところが心はその余分なものの中にあるのです。

ですから合理的に考えれば考えるほど、心は離れてゆくということを企業の皆さんはよくお考え頂きたいと思います。

—— 大変に貴重なお話をありがとうございます。

家庭薬というものは、創業者なり先輩達が長い年月心血を注いでつくりあげてきたものであり、それが大衆の信頼と支持を得て今日に至っているわけでございます。

家庭薬業界が現在おかれている厳しい環境下で今後ともその役割を十分に果たすためには、その創業の心を思い起し、いま何をなすべきか真剣に考えてみる必要があるように思います。

本日はどうも長時間にわたりありがとうございました。

## 横須賀海軍病院 のこと

〔その三〕

ヒサゴ薬品社長

喜谷市郎 右衛門

昭和十五年の春から、満二ケ年間の横須賀海軍病院（略して横病と言った）の勤務も、一応昭和十七年四月を以って終ったのだが、その後、第二回目の横病勤務がある。

すなわち、一旦、病院船氷川丸に転動した後、一ケ年の勤務を経て、再び、昭和十八年五月二十日附で「補横須賀海軍病院部員兼教官」といういかめしい発令があつて、横病、懐しい横病に舞いもどつたのである。

もつとも、一年も乗ると、氷川丸も海も懐しく去り難かつたが。しかしながら、一と度発令があれは、当然のことながら、早く引継を済ませて新しい勤務場所に着任しなければならぬ。

間もなく後任の秋庭薬剤大尉（現千葉大薬学部教授）も着任したので

簡単に引継ぎを済ませ、二十四日に横浜で氷川丸を退船、即日横病に着任したところ、同日附で、療品科長兼試験科長を命ずとの辞令を受けた。

さて、前にも述べたことがあるが、鎮守府海軍病院の療品科の仕事は、医薬品や衛生材料及医療器具器械を購入、製造、保管をし、それらを鎮守府管下の他の病院、艦船部隊に供給することであつたから、薬剤部としては主要な職務で、従つて、

薬剤部の中でも療品科長というのは部長に次ぐ先任者になることになつていて、横病では代々薬剤中佐であつた。

ところが、戦争が始まつてからは、従来鎮守府の四大海軍病院以外に、国内でも要港部や温泉地などに海軍病院が次々と設置される一方、戦地にも海軍病院が出来て来たので、数少しい我々の先輩である薬剤中佐、少佐は、そうした新設病院の薬剤部長となつて出て行つて、払底してしまつた。

そこで、我々の様な短期現役の新米の大尉に、療品科長という重要な役目が廻つて来たのであつた。

さて、この時の前任の療品科長は小谷薬剤中佐であつて、小谷さんは

この時大佐に進級し、別府海軍病院の薬剤部長に栄転されたのであつたが、自分の後釜に若い新米の大尉がやつて来るのは、大変お気に召さない様であつた。

療品科には治療品の供給を受けるため、各艦船部隊の軍医長がやつて来て、これら軍医長に対応するのも療品科長の仕事であつた。

膨大な各部隊からの要望量に対して、薬剤部として保有する治療品の量は限りがあるので、在庫と睨み合せて各部隊に迅速に割当てし、しかも偉い、上官である軍医長さん達に満足してお引きとりを願うことが必要であつた。

幸い、小生の在任中、殆んど何のトラブルもなく過すことが出来たが、物資を握っている職務の重要性を、しみじみ感じたことであつた。

この時の直属上官、薬剤部長は今亡き一条薬剤大佐であつた。

一条さんと言うと、お公家さんの様な高貴な方を想像させるが、実はそれとは程違い、背の低い、坊主頭の、余り立派とは言えないスタイルの方で、いつも、首を右か左か忘れてしまつたが、一方に曲げて歩いておられ、とても海軍大佐には見えなかつた。

おまけに、勤務中でも、ご自分の机の上に足を土足のままあげて椅子に腰掛けたり、帽子をあみだにかぶったりで、御行儀も悪かった。

小谷さんは大分いじめられたらしく、一条さんの中は余り良くなかったようである。

しかし、一条さんは若い士官達の話をよく聞かれたり、又我々が起草する書類の文章などはご自分でよく直して下さり、仲々うまい表現の仕方を見せて頂くことが出来た。

この一条さんに面白い話がある。部長が関西に出張されて、三重県の御木本真珠に寄られたことがあった。真珠と海軍とは直接には縁がないが、当時、贅沢は敵だという時代だから真珠は商売にならず、御木本では御木本製薬を設立して、パールカルクというカルシウム剤を製造し、海軍でもこれを購入し使用していたから、その製造所の視察に寄られたのだと思う。

ところが、名前が一条さんで、海軍大佐という高官であるので、華族の一条公爵家の一族に間違えられたらしく、下にも置かぬ大層丁重で、しかも物凄くもてなしを受けて、一条さんは大変恐縮し困られたということである。

出張から帰られて、「あれには困ったよ。弱ったよ」と繰返し言われていたが、それでも半分は嬉しそうであった。

間違えられたのか、海軍の高官だからそうされたのか明かでないが、よそ行きの海軍大佐の軍服が彼を立派に見えさせたのかも知れない。

この頃の横病薬剤部は随分仕事もふえたが、部長が大佐のほかは、殆んどが短期現役の大、中、少尉ばかりで、気分もすっかり若返って、活気が見られた。



そこで、ただ治療品の供給の様な仕事だけしてはは大学出の薬剤官としては意味がないので、時々夕方作業終了後に試験科に集まって勉強会をやり、これに航空技術廠に配属されていた景山君だとか、燃料廠に配属されていた赤星君なども参加した。

そして夜は時々、若い連中にけしかけられてはフィッシュとか鈴鹿という小料理屋に押しかけて飲んだものだ。この勉強会で一つ頭に残っていることがある。

学生時代に使った緒方章先生の臓器化学の教科書を読み返している時、メラノホルレンホルモンについて簡単な記載があるのにつづかっ

た。このものは蛙の皮膚の黒い色素の成分であるが、視力を強くすると書いてある。視力を強くするならば、

闇夜に視力が強まらないものか。夜戦で、敵より味方が良く見ることが出来れば戦闘に有利ではなからうかと考え、勉強会で話したのである。

これには景山君が目をつけて、空技廠で秘かに研究をし、後に療品廠で山本佳夫中佐が中心となりその製造を推進されたと聞いている。

このホルモンは鮫の脳にも含まれていることが分り、療品廠では鮫の脳を集めて、少量ではあるが抽出したらしい。

そして、抽出物から注射液を作り、人に注射をしたところ、闇夜が月夜位に見える。

そこで、何百本か注射液を作り、昭和十九年サイパンが米軍の手に落ち、敵がここに飛行場を作り、B29により日本を空襲し始めた頃、我が

空軍がサイパンを空襲する時に実地に使用したというのを聞いています。

現在では、レーザー等が発達したから、この様な薬品は不要となったが、薬剤官はこんな面でもご奉公をしたのである。

さて、昭和十八年に入ると、日本軍は戦線の至る所で敗戦に次ぐ敗戦、後退に続く後退で、戦局は悪化の一方となった。

この様な状況では、何時、敵の機動部隊による本土空襲があるかも知れないというわけで、横病でも前の山の横腹に防空壕を掘って倉庫を作り、治療品を格納したり、防火訓練、防毒訓練、救護隊派遣訓練、退避訓練などを頻繁に行う様になった。

そして、翌十九年になると、敗戦の傾向は一段と強まった。

この様な状況下で、五月一日附で「補霞ヶ浦海軍病院部員」という発令により霞ヶ浦海軍病院の薬剤部長に転勤することになった。

第二次の横病勤務は僅かに一年であったが、第一次勤務を加えると横須賀の勤務は海軍生活の中で最も長く、思い出深いものである。

横須賀海軍病院は終戦後直ちに米

海軍に接収され、現在でもなお米海軍横須賀基地の病院として使用されているので、一度、この思い出の病院を見学したいとは思っているが、その機会がなく残念である。

## アキラ旅行記

### — 第十一回 —

津 村 昭

何しろ今書いているのは十年も以前のことなので、現在では事情もかなり変わっていると思う。昔話として読んでいただきたい。

前回はタヒチだったので、今回はその続き、アカブルコである。

その前に、何故雨のタヒチで一週間も過したのかを説明しよう。タヒチからアカブルコへは週一便しかなく、私が乗って来た便が、ハワイ・フィジ・タヒチ・アカブルコと巡航しているらしく、一週間待って、同じ飛行機に乗ることになるわけだ。一週間ぐらいわけなく過ぎてしまうと

時間つぶしに苦勞し、最後の日は雨中の水泳と言う仕末であった。

ロータリークラブの会合に出たら、一日、会員宅に招待され、ワイン攻め、シャンペン攻めでフラフラになった。フランス式なのだろう。翌日はドライブに誘われたりして、ロータリークラブの有難さを味わった。

さて、アカブルコ行きは夜中の一時頃出発である。空港に行くとき、一人の日本人がウロウロしていて、盛んに何か聞いて歩いている。あまり風采もあがらないし、英語もうまそうではなく、旅馴れない感じの人だ。そこで、「こう言う人は、面倒を見て上げなければ……。自分は旅馴れていて、言葉も何とか話せるし」と思い、しかし急に近づくのも何だから、と様子を見ていた。

やがて飛行機に乗ると隣の席である。チェックインのやつが気をきかしたのだ。おもむろに話し出してビックリした。もう二ヶ月もポリネシアをウロついているらしい。ところが泳ぎはやらないと言う。何をしているのですかと聞くと、サモワだかトンガだか忘れたが、そこで毎日ハシモックで昼寝をしていたと言う。「これがいいんですよ」と言う。ど

うして、なかなかの人物で英語もうまい。本当のタビビトの感じである。アカブルコの税関で彼の荷物をのぞいてまたビックリ。一つのカバンはフィルムがぎっしり、もう一つは地図の山である。

私よりほど旅馴れている。その後がまた大変で、タクシーに乗る段で、ひげの生えたいかついメキシコの運ちゃんとかスペイン語で料金のことでやり合っている。まったく恐ろしい人も居るもので、人は見かけによらない。ガダラハラヘバスで行きますから、ご一緒にいかがですか、と誘われたがご遠慮した。

メキシコのプールは全部ぬるい。二十五度以上ありそうで、二十五度泳ぐとヘトヘトに疲れるし、暑さしにぎにならない。航空会社では英語が通じないし、泊ったホテルは冷房の調子が悪く、二日の予定を一日にしてメキシコシティへ逃げ出した。どう言うわけか、ここの冷房も壊れていて、暑くて寝られないし窓も開かないので仕末におえない。ピラミッド見物を申し込んでおいて寝過ぎたり、とにかく、メキシコには良い印象がない。

シティを歩いていたら、秋葉原そっくりの電気器具、部品ばかり売っ

ている所に迷い込んだ。あんな町は日本とメキシコにしか無いに違いない。あの秋葉原にだけは、もう一度行ってみたい。

メキシコをそうそうに逃げ出してニューヨークに着いた。税関に赤と青のランプがあり、申告する物が無い人は青に沿って行けとなっているので、その方が検査が簡単なのだろうと思いつながら歩いていたら、いつの間にか外へ出てしまった。大まかなものだ。しかし、メキシコからは麻薬ルートがあるのだから、いつもこうだと思つて行くとひっかかるのだろうと考えている。

東南アジアから回ったおかげで、すっかり疲れてしまった。その後ニューヨークからどこへ行ったのか良く憶えていない。サンフランシスコから帰ったと思う。

だんだん元気が無くなる。今だっただらとでも回る気がしないが、大変に変化に富んだコースであるには違いない。

タヒチと南米の間にイースター島がある。ここへ行ってみたかったのだが、その時分にはホテルも無かつたし、タヒチからの便も無かつた。もう一度元氣を出して、ハワイからフィジーの間の島を回って南米へ行

ってみたい。  
元氣のあるうちに昼寝に行きたいものだ。

## 薬とともに 四十有余年

〈その二十〉  
松田金之助

戦後、クロロマイセチンを武器に次々と地方に創設された三共会は、文字どおり旭日昇天の勢でありました。

三共製品の拡売を助ける店頭コンクールは極めて好評で、他のメーカーも競って真似をしたものです。

この様な時期に社長の望まれたものは恐らく名誉であつたらうと思えます。万平社長は様々な社長職を歴任され、畑違いと言われた薬業界でも、一頭地を抜いた業績を上げられたのですから、その社長の眼が政界に向けられたとしても、あながち不自然とは言えません。

鈴木社長の参議院立候補は周囲を驚かせはしたものの、商売一途の河

口専務や中村所長は、到底賛成できないと言う態度でした。しかし私には、子供に恵まれない万平社長の胸のうちも理解できる気がしました。立候補が宣言された以上、大共の面目にかけても落選は許されません。

特に全三連会員にしてみれば何を措いても当選させざるを得ません。丁度その頃、岐阜の長良川ホテルで全国三共会連合会の設立総会が開催され、席上、鈴木万平社長が立候補の決意を発表されました。

参会者全員はこれに応え、当選に向かって努力することを誓い、河口専務、中村所長も社長を応援されることとなりました。

さて、出馬は静岡からと言うことになり、静岡商工会議所の増井慶太郎会頭に選挙長をお願いすると共に不省松田も、日本薬種商協会会長であったことでもあり、静岡県薬種商協会四百有余会員に格別のご協力をお願いしました。

一方、全三連では、全国に網を張り、静岡地区に知己友人を持たれる方々と、本当に一票一票を拾い集めるため、夜に日を継いで東奔西走したものでした。

当時の三共静岡出張所の望月所長

や、現在東京第一支店長である関野次長のきびしさと御苦労は、今も忘れることができませぬ。

この様に、三共本社はもとより、全三連会員、東京、静岡営業所の皆様の死闘が実り、鈴木社長がめでたく当選された時の喜びは、まったく夢のようでした。三共会の当選祝賀会が湯ヶ原温泉で催されましたがお祝いに馳せ参じた人々も、ほっとすると同時に身をもって体験した選挙の怖ろしさに、心の冷える思いをし



たようでした。万平社長ご本人も、この苦闘によって勝ち取られた参議院議員のバッジを胸にされたときの胸中はどんなものだったでしょう。また、奥様とお二人で、この榮譽をどのように受けとめられたのでしょうか。

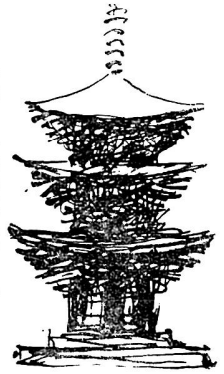
その後、勲一等瑞宝章を授けられた社長は間もなく不帰の旅に立たれました。

社長のご生前にせめて一度でも心からの想い出話に浸ることができたらと思うのは、私の老いの繰りごとと言うものです。

三共会の宴会の機会など「松田さん、松田さん」とおそばへ呼んでくださり、あの大社長が田舎出の語るべき何の学もない野人である私と語られたのは、洗練され、とぎすまされた人々の中で、土の匂いいっぱい緑地帯のようなもので、心ゆくまでくつろがれた心境ではなかったかと自問自答するのが昨今の習慣になっております。

(東海貿易会長)





### 〈委員会だより〉

#### 薬事委員会

委員長 喜谷市郎右衛門

昨年三月以降本年三月迄、約一年間の当委員会の活動状況についてご報告します。

先ず、一般用胃腸薬の製造承認基準(案)の検討についてである。

胃腸薬の承認基準(案)は現在も厚生省の薬事審議会の一般薬特別部会並びに調査会で審議中であるが、審議の都度、当局より問題点が連絡され、業界に資料等が要求されるので、日薬連の胃腸薬検討委員会が窓口となり業界意見の取りまとめに当たっている。

当委員会はこれに対処し、必要の都度、薬事委員並に胃腸薬関係組合員の参集を求め、状況報告並に組合員意見の取りまとめを行い、それを日薬連検討委員会の審議に反映させて来た。

第二に、一般用医薬品の再評価に

関し述べると、昨年三月二十日附で薬務局長通知「一般用医薬品再評価実施に伴う全品目調査について」が次いで四月一日附で「一般用医薬品再評価の実施について」が出されて一般薬の再評価が開始された。

そこで、当委員会は、四月廿五日に組合員全員に対する一般用医薬品再評価に関する説明会を開催し、再

行った。

その後、十一月一日には、解熱鎮痛薬、流腸薬、駆虫薬の三薬効群が、本年三月一日には、かぜ薬、催眠鎮静薬、鎮暈薬の三薬効群が指定され、委員会としては、夫々の申請が円滑に行なわれるよう、組合員の中より各薬効群に幹事、世話役を送り込んでいる。

一般用医薬品の使用上の注意については、昨年九月、大部分の薬効群についての記載事項が日薬連の申し合せ事項として決定され、記載の実施に入ったが、これら記載事項案の策定については、当委員会委員の多くが参加、尽力された。

昨年、年初以来、薬事法の一部改正問題が起り、以来、日薬連薬事法改正審議会では、厚生省と折衝を重ねて来たが、当委員会でも、問題点を取り上げて検討を行ない、日薬連の意見取りまとめに反映させるよう努めた。

厚生省は、薬事法一部改正要綱案をとりまとめ、去る三月六日、薬事審議会に諮問し、同十三日には答申が行われ、三月末に国会に提出された。

本年度は、薬事法改正に伴う政省令の改正も行われるので、当委員会

もこれに対し、善処したい。

以上の様に、本年は、再評価と薬事法改正という大きな問題と取組んで行かねばならない。

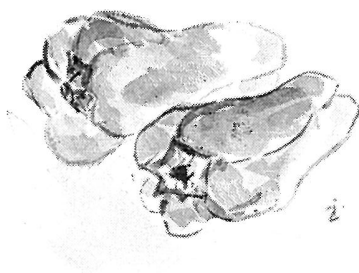
当委員会としては、委員のみでなく、広く組合員のご意見も伺いながら、組合員意見の取りまとめ、調整を計って行きたいので、相変らぬ皆様のご協力、ご支援をお願い致します。

#### GMP委員会

委員長 渡辺俊邦

昭和五〇年四月一日から実施されたから、今年四月一日よりGMP完全実施となる迄の三年間にソフト、ハードを企業実態に組入れること、またGMP解説書を実情からみた内容の改訂等の作業をするため、組合員GMP委員会は、先ず組合員GMP委員会社の内容実態を知り、各々が参考を得ることを目的として、各社を見学し細則にてらし、研究検討からスタートして来ました。

ソフト面では、記録書類の内容、ロット、製造管理、品質管理、これらの責任者の問題、ハード面では、製造品目の区分、コンタミネーションに対する設備の件、作業室共用の



氏 枝 静 林 建 切

評価実施に対処するため、遺憾のない様にした。

更に昨年八月一日附で、一般用医薬品再評価の第一陣として、鎮咳去痰薬が指定されると、八月十一日に薬事委員と鎮咳去痰薬関係組合員との合同打合会を開催し、再評価申請に関する説明を行なうと共に検討を

件等重要な問題について、昭和五二年一月の解説書改訂に至る迄組合委員会として、日薬連GMP委員会、運営部会の場で当組合としての意見を以て対処してきました。

各々企業が、GMPの精神と内容を理解して、多様な実態に応じた解釈運用をもって、目的達成につとめてきました。

昭和五三年に入って、薬事法改正問題が出て、従来の指導的GMP特に品質管理、試験検査を要点としたソフト面を重視して法制化することになり、委員会は法制化に対する対応意見を提出してきました。製造衛生管理責任者、保管管理責任者、試験計画書等の問題について、委員会社にアンケート調査資料の提出等もお願いしてきました。

これらは薬事法改正に対し、製造業の実態を当局に理解してもらおう為の資料であります。今年四月一日よりGMP完全実施によって問題となる製造業の許可申請等の取扱いは、日薬連より四月以降も当分の間、実情勘案の上、取扱いをする様にお願していたが、昭和五四年三月一三日付薬務局長通知をもってしめされたことは、この内容が、直接改正薬事法に

移行していくものでありましょう。

不十分な面に対し、重点的に監視体制を強める様です。当然、法改正後は指導GMPから甚だ強制力と罰則規定もったものになるわけです。

委員会として、その改善措置の遅れている面があるとするならば、一日も早く改善達成する様に努力を重ね一方組合各社の御意見を参考にしてGMPの法制化にまつわる問題に対応していく考えであります。

## 太田胃散百周年

株式会社太田胃散（太田昭取締役社長・当組合副理事長・全家協副会長）は、明治十二年六月八日胃散製造販売の売薬許可を得て以来胃散製造一筋に今年創立百周年を迎え六月二十二日記念祝賀会がホテルオークラ玉庭の間に行なわれ関係官公署、団体及び製薬関係者等が多数参会し、太田社長の挨拶、厚生省本橋信夫薬務局審議官、東京都青柳健太郎薬務部長などの祝辞があり、中外製薬株式会社上野公夫社長のご発声で乾杯のあと記念パーティーが開かれ株式会社太田胃散百年の社業を称え、今後益々の発展を祈念し盛会裡に散会した。

三共ゾーキ株式会社相談役中西三樹夫君の御他界を知りまして感慨深いものがありますが、何くれとなく馳ってくる追憶を述べて追悼のことに代えさせていただきます。

## 中西三樹夫君

### 追悼

河合製薬株式会社

川口光造

三共ゾーキ株式会社相談役中西三樹夫君の御他界を知りまして感慨深いものがあります。

私が中西君と初めて知り合ったのは、今から五十年前も前の昭和二年四月に千葉医大薬学専門部の入学式の時で、当時のことが今でも懐しく思い出されます。

三年間クラスの仲間と共に千葉で学生生活を楽しみ送り、昭和五年三月卒業したその送別会の席上で、今後末永く友情を保つために、五葉会という名称のクラス会をつくり、時折り会合を持つことを約束した訳で、この会合は今日もお続いて居りまして中西君も五葉会の常連でした。

君は卒業と同時に三共の当時の広告課に入社して、プロパーとして恵まれたスタートを切った一人でした。

君は又支那事変、大東亜戦争、とたしか二回も応召されて薬剤官として軍務に服し、国の為に奉公されましたが、終戦後無事内地に帰還されると又三共にもどり、各支店の勤めを経て、営業担当の役員となり、営業方面一筋に活躍されましたが、その後三共ゾーキ株式会社の社長に転出されました。

君はクラスの中でも酒豪の方で元気な大男でしたが、昨年あたりから病気がちになり、第一線から退いて療養に努めて居った様でしたが、元気な君も遂に残念ながら不帰の客と相成りました。

私も五葉会の仲間の一人である君をここに失って一抹の淋しさを感じる次第です。

中西君何卒心安らかに永久の眠りについて下さい。



氏夫樹三中西故



# 男のお洒落

玉置石松子

男には男のお洒落巴里祭

泳ぎつくごとく片蔭頼りけり

大き蛾の死なんとしては裏返る

ビヤホール脱皮のやうに

上着脱ぐ

金魚玉精綺水の曇濃紫

十葉の濃き闇にして濃く匂ふ

ゴッホ観て牡丹の淡き彩を買ふ

合飲の花塵芥船がすれすれに

四葉クローバ本より落ちし

昼寝かな

桔梗一枝活けあり手描友禅展

どこかでちろろ人工芝の

露けしや

た。

昭和三年東京生れ未だ東京を離れたことはないそうです。

お酒の方はだめだそうですがスポーツが好きだそうです。

## 訃報

東京都家庭薬工業協同組合事務局



氏枝静林建カット

長清水謙明氏は六月二十八日脳内出血のため急逝されました。

同氏は昭和五十一年二月から三年五ヶ月の間、主として経理事務、薬友会（現在休会中）を担当、努力されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

## 編集後記

○八月の第三週は旧盆と重なり、又各企業も省エネルギーの立場より暑中休暇を増やした故か、東京の中心街は車も普段の半分位の感じであり、通勤電車も大変楽な状況を呈した。東京も毎日この位の空きかただと身体の疲れも違うし、仕事の能率もよりあがるのではないかと思われる一週間であった。この間東京を脱出した人々は故郷に帰ってなつかしい親戚、友人と旧交を温め、東京人三代目白痴論に思いを致し、日頃の仕事振りに反省を加えた人も、又久し振りに家族サービスをして本当の身内のあり方に感慨のあった方も多かったと思う。

○「日本人は働き過ぎである」「レジャーの過し方が下手だ」等々欧米よりの批判の声が強し。しかし最近中国を廻って、帰って来た友人は中国人の眼に輝きがない。働かざる者食うべからずの原則の下に乏しい食料を分け合って、非効率に仕事を分担して、ノルマを消化すれば事足りる社会主義社会より、激しすぎるくらいはあるものの明日の向上を目指して努力し、優勝劣敗の原則の下に自由に活躍出来る日本の幸福を嚙み

しめてきたとの言葉を聞いて、エネルギー危機と云われる昨今の情勢も日本人は必ず乗り切れると意を強うした次第である。

さて、薬業界は薬事二法が臨時国会で略成立する情勢にあり、之に伴い種々の影響も予想され、各企業ともより真剣に国民医療に貢献出来る強い体質の業界への脱皮を進めねばなるまい。

○巻頭言に新田審査課長殿より一般薬の承認審査についての、行政サイドの現況を書いて戴いた。申請件数は前年比十六%増と素晴らしい馬力であるが返戻、返送が三割近くとは……之が単純ミスも含めて……我々は生命関連商品を作る一員でありGMPの精神もミスの事前防止にある。競争の中にも余裕を以って充分反省しつつ、三代白痴にならぬ様、企業防衛と発展に努力致しましょう。

東京都家庭薬工業協同組合報

かていやく 第三十九号

昭和五十四年九月十日発行

編集・印刷・発行

東京都家庭薬工業協同組合

東京都中央区銀座八・一八・一六

電話（五四三）一七八六